

お台場海浜公園内 旧防波堤（2 島）における鳥類のモニタリング調査 春季調査（4 月）報告書

2020 年 5 月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内旧防波堤における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50 m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 2 年 4 月 16 日（木）	8 : 00～14 : 00	晴のち曇

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡などを必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を行った。

（1） 船上センサス

鳥の島の 2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、鳥の島及び周辺を観察し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。

（2） ラインセンサス

各島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望のよい定点を設定し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

鳥の島の2島を任意に踏査し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

第5回の秋季調査にて、ホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内の生息状況を確認するため、冬季調査から今回調査までの51日間、西島に自動撮影カメラを1台設置した。

- その他の生き物

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。

5. 評価方法

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果の評価をした。調査回の定義を表2に示す。今回は第5回の春季調査にあたる。

表2 調査回の定義

調査回	調査時期
第1回	平成27年夏季～平成28年春季
第2回	平成28年秋季～平成29年夏季
第3回	平成29年秋季～平成30年夏季
第4回	平成30年秋季～令和元年夏季
第5回	令和元年秋季～令和2年夏季（夏季は7月実施予定）

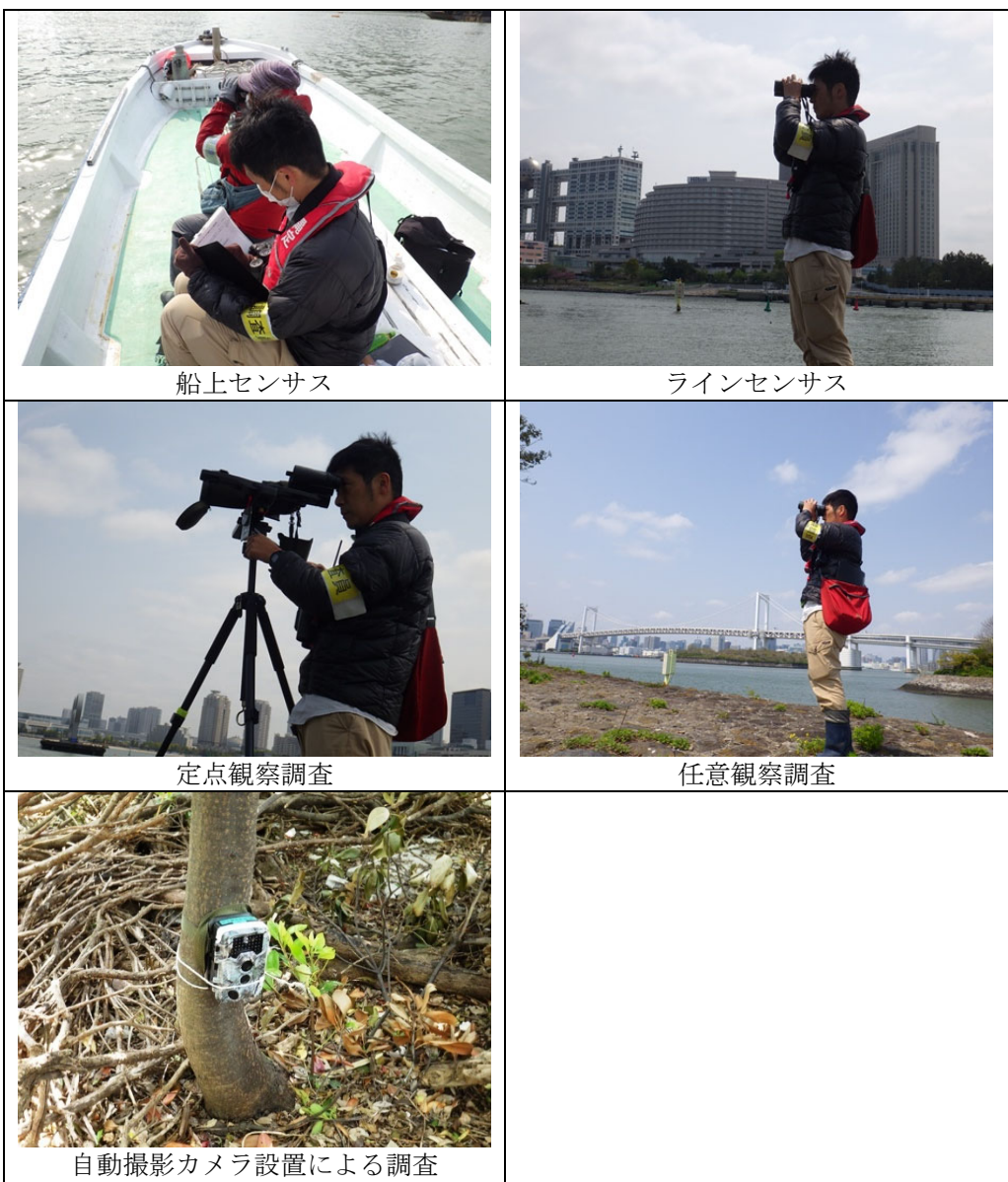


写真 1 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点図

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 3、船上センサス結果を表 4、ラインセンサス結果を表 5、定点観察結果を表 6 に示す。

- 現地調査の結果、9 目 19 科 27 種が確認された (表 3)。
- 確認種のおよそ半数は水域やその周辺に生息する鳥類であり、カルガモやアオサギ、ユリカモメなど 15 種が確認された。島内の樹林では、シジュウカラやヒヨドリ、アカハラなど森林やその周辺に生息する鳥類が 8 種確認された。そのほか、猛禽類であるトビや、都市部でも見られるキジバトやハシブトガラス、スズメが確認された。
- 渡り区分別にみると、カワウやカワラヒワなどの留鳥 (ある地域で一年中見られる種) が最も多く、次いでアカハラやアオジなどの冬鳥 (ある地域で冬季に見られる種) が確認されたほか、チュウサギやコチドリなどの夏鳥 (ある地域で夏季に見られる鳥) も確認された。

- 重要種はスズガモ、カンムリカイツブリ、チュウサギ、コサギ、オオバン、コチドリ、イソシギ、トビの合計 8 種が確認された（表 3）。島内では、護岸周辺でとまり休息するコチドリや、採餌をするイソシギが確認された。島周辺の海域では、群れで遊泳するスズガモや、単独で遊泳するカンムリカイツブリ、オオバンが確認されたほか、飛翔するチュウサギ、コサギ、トビが確認された。
- 確認された重要種のうち、特に選定基準上の重要度が高い種としてチュウサギが挙げられる。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧、東京都のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。今回は、島の上空を通過する 6 個体が確認された。
- 外来種は確認されなかった（表 3）。
 - 確認個体数が特に多かった種はスズガモであった。スズガモは、船上センサスでは 2 島で合計 168 個体（表 4）、ラインセンサスでは合計 41 個体（表 5）が確認され、優占度は東島で 21%、西島で 32%を占め、定点観察調査では合計 51 個体（表 6）が確認された。
- カワウはこの時期、多くのペアが抱卵期から育雛期であり、今回の調査において、巢上で親鳥の抱雛行動が確認された。
- ヒヨドリ、ツグミ、カワラヒワによる東島の南西端と西島の北東端の往来が確認された。都市部に残る少ない樹林を移動経路として利用するほか、ヒヨドリ、ツグミに関しては樹林の新芽や実、時には昆虫やクモなどを食べるための場所として、島内を利用していることが考えられる。
- 島内ではアブラナ類が結実しており、カワラヒワの群れがその種子を採餌する様子が確認された。カワラヒワは主に植物食であることから、アブラナ類の群落は本種の採餌場所として利用されていると考えられる。
- ソメイヨシノの枝で、スズメの群れが確認された。4/14 の「お台場旧防波堤 サクラプロジェクト 経過観察・作業記録」によれば、オビカレハの幼虫がソメイヨシノに大量に発生し、駆除したことが記録されていた。また、作業員によれば、そのオビカレハの幼虫にスズメが群がっていたとのことであった。現地調査時にはオビカレハの幼虫は確認されなかったことから、スズメは休息のためソメイヨシノを利用していただけものと考えられる。

（2） 過去調査との比較

表 7 に確認種、表 8 に船上センサス結果、表 9 にラインセンサス結果、表 10 に定点観察結果、それぞれの前回調査（春季）との比較を示し、表 11 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 前回調査（春季）との確認種数の比較は、第 4 回では東島で 22 種、西島で 20 種、合計 25 種、第 5 回では東島で 25 種、西島で 22 種、合計 27 種であった（表 7）。第 4

回の確認種（25 種）のうち、約 9 割の種（23 種）は第 5 回でも確認されており、鳥類相に大きな変化はなかった。

- 第 4 回で確認されず第 5 回で確認された種はハジロカイツブリとチュウサギ、第 4 回で確認され第 5 回で確認されなかった種はコアジサシとタシギであった（表 7）。ハジロカイツブリとタシギは冬鳥、チュウサギとコアジサシは夏鳥であり、春季はこれらの種の渡りの時期にあたるため、調査年によって渡去・渡来時期に変動があり、記録の有無に影響するものと考えられる。なお、チュウサギとタシギについては、鳥の島が本来の生息環境ではないことから、渡りの時期に一時的に飛来したものと考えられる。
- 第 4 回より第 5 回で個体数や優占度が著しく増加した種はスズガモであった（表 8、9）。今回調査では、船上センサス及びラインセンサスにおいて、第 4 回調査で確認個体数が最も多かったカワウを上回った。スズガモは冬鳥であり、春季は渡去する時期にあたるが、今回は渡去せずに残っていた個体が多かったことが要因と考えられる。
- 第 4 回より第 5 回で個体数が著しく減少した種はカワウであった（表 8、9、10）。カワウがもともと営巣していた常緑樹の面積がサクラ類の植栽等で縮小したことや鳥の島の整備作業等で人が立ち入るようになったことで、徐々に減少している可能性がある。
- 今回の春季調査で初めて確認された種はチュウサギであった（表 11）。本種は東島での定点観察中、地点の西側から北東側へ上空を通過する 6 個体が確認された。本種は夏鳥であり、渡りの途中に確認された可能性がある。

（3） その他

その他方法（自動撮影カメラ設置による調査及び鳥類調査時の他項目の調査）による調査結果について表 12 に示す。鳥類 5 目 7 科 8 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種、爬虫類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラ調査において、ホンダタヌキは撮影されなかった。特記事項として、西島の広範囲で糞が確認されていたドブネズミが一番多く撮影された。そのほか、選定基準上の重要度が高い種としてオオタカ成鳥雌が 3 月 3 日に獲物（ハト大）を捕らえ、自動撮影カメラの前の地面で獲物をさばく様子が撮影された。また、踏査においてアオダイショウが確認されており、島内のドブネズミ等を食していることが推測される。
- カメラの画像を解析した結果、哺乳類ではドブネズミ 1 種、鳥類ではカルガモ、キジバト、カワウ、オオタカ、ハシブトガラス、アカハラ、ツグミ、アオジの 8 種が確認された。ホンダタヌキは確認されなかった。冬季及び春季調査においてもホンダタヌキの新しいため糞は確認されなかったことから、秋季に一時的に西島を利用

していたものと考えられる。秋季調査時の糞の量から複数個体が一時的に生息していた可能性がある。

- 特記事項として、3月3日にオオタカ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧、東京都レッドリスト：絶滅危惧 IA 類）が獲物（ハト大の鳥類）を摂食している様子が撮影された。第4回までは毎回記録されていたが、第5回では確認されなかった種であり、西島を餌の解体・摂餌場所として利用していることが明らかとなった。
- 現地調査時にアオダイショウ（東京都レッドリスト：準絶滅危惧）1個体が西島で確認された。

表 3 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	調査時期		重要種選定基準			
				春季(4月)		①	②	③	④
				東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	○	○				
2			スズガモ	○	○				留意
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	○	○				留意
4			ハジロカイツブリ	○					
5	ハト	ハト	キジバト	○					
6	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○				
7	ペリカン	サギ	アオサギ	○	○				
8			チュウサギ	○				NT	VU
9			コサギ	○	○				VU
10	ツル	クイナ	オオバン	○	○				VU
11	チドリ	チドリ	コチドリ	○	○				VU
12		シギ	イソシギ	○	○				VU
13		カモメ	ユリカモメ	○	○				
14			ウミネコ	○	○				
15			セグロカモメ	○	○				
16			トビ	○					NT
17	スズメ	カラス	ハシブトガラス	○	○				
18		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○				
19		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○				
20		メジロ	メジロ		○				
21		ヒタキ	アカハラ		○				
22			ツグミ	○	○				
23		スズメ	スズメ	○	○				
24		セキレイ	ハクセキレイ	○	○				
25		アトリ	カワラヒワ	○	○				
26		ホオジロ	ホオジロ	○					
27			アオジ	○	○				
合計	9 目	19 科	27 種	25 種	22 種	0 種	0 種	1 種	8 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は以下の通りである。

①文化財保護法(昭和 25 年、法律第 214 号)

天:天然記念物 特:特別天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号;平成 23 年改訂)

国内:国内希少野生動植物 国際:国際希少野生動植物

③「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)における掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)～」(平成 25 年、東京都)における区部の掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留意:留意種

表 4 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				春季(4月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	12	3	15
2			スズガモ	118	50	168
3	カイツブリ	カイツブリ	ハジロカイツブリ	3	0	3
4			カンムリカイツブリ	1	1	2
5	カツオドリ	ウ	カワウ	25	42	67
6	ペリカン	サギ	アオサギ	0	2	2
7	ツル	クイナ	オオバン	7	0	7
8	チドリ	シギ	イソシギ	1	0	1
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	5	1	6
10		シジュウカラ	シジュウカラ	1	0	1
11		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0	5	5
12		セキレイ	ハクセキレイ	1	0	1
13		アトリ	カワラヒワ	0	1	1
合計	7 目	11 科	13 種	174	105	279
				10 種	8 種	13 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				春季(4月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	2%	3	5%	5
2			スズガモ	22	21%	19	32%	41
3	ハト	ハト	キジバト	2	2%	0	0%	2
4	カツオドリ	ウ	カワウ	32	31%	12	20%	44
5	ペリカン	サギ	コサギ	1	1%	0	0%	1
6	ツル	クイナ	オオバン	0	0%	1	2%	1
7	チドリ	チドリ	コチドリ	0	0%	2	3%	2
8		シギ	イソシギ	0	0%	1	2%	1
9		カモメ	ユリカモメ	0	0%	1	2%	1
10			ウミネコ	1	1%	0	0%	1
11	スズメ	カラス	ハシブトガラス	0	0%	4	7%	4
12		シジュウカラ	シジュウカラ	1	1%	0	0%	1
13		ヒヨドリ	ヒヨドリ	4	4%	1	2%	5
14		ヒタキ	アカハラ	0	0%	1	2%	1
15			ツグミ	4	4%	0	0%	4
16		スズメ	スズメ	17	17%	5	8%	22
17		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	2	3%	2
18		アトリ	カワラヒワ	16	16%	8	13%	24
19		ホオジロ	ホオジロ	1	1%	0	0%	1
合計	7 目	16 科	19 種	103	100%	60	100%	163
				12 種		13 種		19 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 定点観察結果

No ・	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				春季(4月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	0	0%	5	5%	0	0%	5
2			スズガモ	3	6%	4	9%	32	35%	12	24%	51
3	カイツブリ	カイツブリ	ハジロカイツブリ	0	0%	3	7%	0	0%	0	0%	3
4	カツオドリ	ウ	カワウ	3	6%	7	16%	11	12%	18	35%	39
5	ペリカン	サギ	アオサギ	1	2%	0	0%	1	1%	0	0%	2
6			チュウサギ	6	11%	0	0%	0	0%	0	0%	6
7	ツル	クイナ	オオバン	0	0%	2	5%	0	0%	1	2%	3
8	チドリ	チドリ	コチドリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1
9		シギ	イソシギ	2	4%	1	2%	2	2%	0	0%	5
10		カモメ	ユリカモメ	13	24%	10	23%	20	22%	7	14%	50
11			ウミネコ	0	0%	2	5%	0	0%	1	2%	3
12			セグロカモメ	2	4%	0	0%	1	1%	0	0%	3
13	スズメ	カラス	ハシブトガラス	12	22%	1	2%	8	9%	0	0%	21
14		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	0	0%	1	1%	1	2%	2
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0	0%	2	5%	2	2%	4	8%	8
16		ヒタキ	ツグミ	0	0%	3	7%	1	1%	0	0%	4
17		スズメ	スズメ	3	6%	0	0%	0	0%	0	0%	3
18		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	2	5%	2	2%	1	2%	5
19		アトリ	カワラヒワ	8	15%	7	16%	5	5%	5	10%	25
20		ホオジロ	ホオジロ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1
21			アオジ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	1
合 計	7 目	16 科	21 種	54	100%	44	100%	92	100%	51	100%	241
				11 種		12 種		14 種		10 種		21 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 前回調査結果との比較：確認種（春季）

No.	種名	調査時期			
		春季(4月)		春季(4月)	
		第4回 (H30～H31/R1)		第5回 (R1～R2)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	スズガモ	○	○	○	○
3	カンムリカイツブリ	○		○	○
4	ハジロカイツブリ			○	
5	キジバト	○	○	○	
6	カワウ	○	○	○	○
7	アオサギ	○	○	○	○
8	チュウサギ			○	
9	コサギ	○	○	○	○
10	オオバン	○	○	○	○
11	コチドリ			○	○
12	タシギ		○		
13	イソシギ	○	○	○	○
14	ユリカモメ	○	○	○	○
15	ウミネコ	○	○	○	○
16	セグロカモメ			○	○
17	コアジサシ		○		
18	トビ		○	○	
19	ハシブトガラス	○	○	○	○
20	シジュウカラ	○	○	○	○
21	ヒヨドリ	○	○	○	○
22	メジロ	○			○
23	アカハラ	○			○
24	ツグミ	○		○	○
25	スズメ	○	○	○	○
26	ハクセキレイ	○	○	○	○
27	カワラヒワ	○	○	○	○
28	ホオジロ	○		○	
29	アオジ	○	○	○	○
合計	29 種	22 種	20 種	25 種	22 種
		25 種		27 種	

表 8 前回調査との比較：船上センサス結果（春季）

No.	種名	調査時期			
		春季(4月)		春季(4月)	
		第4回 (H30～H31/R1)		第5回 (R1～R2)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	4	9	12	3
2	スズガモ	0	0	118	50
3	ハジロカイツブリ	0	0	3	0
4	カンムリカイツブリ	0	0	1	1
5	カワウ	200	117	25	42
6	アオサギ	2	1	0	2
7	コサギ	1	0	0	0
8	オオバン	0	0	7	0
9	イソシギ	2	2	1	0
10	ユリカモメ	1	1	0	0
11	コアジサシ	0	2	0	0
12	ハシブトガラス	2	2	5	1
13	シジュウカラ	1	1	1	0
14	ヒヨドリ	4	0	0	5
15	スズメ	0	3	0	0
16	ハクセキレイ	0	0	1	0
17	カワラヒワ	2	1	0	1
18	アオジ	1	0	0	0
合計個体数		220	139	174	105
合計島別種数		11 種	10 種	10 種	8 種
合計種数		13 種		13 種	

表 9 前回調査との比較：ラインセンサス結果（春季）

No.	種名	調査時期							
		春季(4月)				春季(4月)			
		第4回(H30～H31/R1)				第5回(R1～R2)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	0	0%	2	2%	3	5%
2	スズガモ	0	0%	0	0%	22	21%	19	32%
3	キジバト	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%
4	カワウ	81	90%	103	84%	32	31%	12	20%
5	アオサギ	2	2%	3	2%	0	0%	0	0%
6	コサギ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
7	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
8	コチドリ	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
9	タシギ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
10	イソシギ	0	0%	2	2%	0	0%	1	2%
11	ユリカモメ	0	0%	1	1%	0	0%	1	2%
12	ウミネコ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
13	ハシブトガラス	4	4%	2	2%	0	0%	4	7%
14	シジュウカラ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
15	ヒヨドリ	1	1%	2	2%	4	4%	1	2%
16	アカハラ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
17	ツグミ	0	0%	0	0%	4	4%	0	0%
18	スズメ	0	0%	2	2%	17	17%	5	8%
19	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
20	カワラヒワ	0	0%	7	6%	16	16%	8	13%
21	ホオジロ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
22	アオジ	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	22 種	90	100%	123	100%	103	100%	60	100%
		5 種		9 種		12 種		13 種	

表 10 前回調査との比較：定点観察結果（春季）

No.	種名	調査時期															
		春季(4月)								春季(4月)							
		第4回(H30～H31/R1)								第5回(R1～R2)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	1	3%	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	5	5%	0	0%
2	スズガモ	0	0%	20	41%	0	0%	0	0%	3	6%	4	9%	32	35%	12	24%
3	ハジロカイツブリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	7%	0	0%	0	0%
4	キジバト	0	0%	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5	カワウ	21	54%	21	43%	10	40%	63	74%	3	6%	7	16%	11	12%	18	35%
6	アオサギ	2	5%	2	4%	1	4%	3	4%	1	2%	0	0%	1	1%	0	0%
7	チュウサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	6	11%	0	0%	0	0%	0	0%
8	コサギ	1	3%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	オオバン	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	1	2%
10	コチドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
11	イソシギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	1	2%	2	2%	0	0%
12	ユリカモメ	0	0%	1	2%	5	20%	14	16%	13	24%	10	23%	20	22%	7	14%
13	ウミネコ	4	10%	2	4%	1	4%	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	1	2%
14	セグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	0	0%	1	1%	0	0%
15	ハシブトガラス	2	5%	0	0%	0	0%	0	0%	12	22%	1	2%	8	9%	0	0%
16	シジュウカラ	2	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1	2%
17	ヒヨドリ	4	10%	2	4%	4	16%	0	0%	0	0%	2	5%	2	2%	4	8%
18	ツグミ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	7%	1	1%	0	0%
19	スズメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	6%	0	0%	0	0%	0	0%
20	ハクセキレイ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%	2	2%	1	2%
21	カワラヒワ	0	0%	0	0%	2	8%	4	5%	8	15%	7	16%	5	5%	5	10%
22	ホオジロ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
23	アオジ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
合計	23 種	39	100%	49	100%	25	100%	85	100%	54	100%	44	100%	92	100%	51	100%
		10 種		7 種		8 種		5 種		11 種		12 種		14 種		10 種	

表 11 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 5 回)

No.	種名	調査時期									
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 春)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○	
2	ヒドリガモ									○	○
3	マガモ		○	○	○		○	○	○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	オナガガモ				○	○	○			○	
6	コガモ							○			
7	ホシハジロ						○	○		○	○
8	キンクロハジロ										○
9	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	ウミアイサ		○					○	○	○	
11	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	ミミカイツブリ			○							
13	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	ゴイサギ					○					
17	ササゴイ		○								
18	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○		
20	チュウサギ									○	
21	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○
24	タシギ								○		
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キョウジョシギ					○	○				
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ	○	○			○					
30	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○				
32	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○		
33	ミサゴ	○		○			○		○		○
34	ハチクマ	○									
35	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	ハイタカ		○		○					○	
37	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●
38	ノスリ		○	○	○	○		○		○	
39	カワセミ			○			○				
40	チョウゲンボウ		○				○	○			
41	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○		
42	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○
43	カケス				○						
44	オナガ			○	○	○	○				

表 11 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 5 回)

No.	種名	調査時期									
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 春)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ヒバリ						○				
48	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○		
49	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○
51	オオムシクイ								○		
52	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	オオヨシキリ			○		○					
54	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○
55	コムクドリ				○	○					
56	シロハラ	○	○	○	○						
57	アカハラ	○			○			○			○
58	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○
60	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○
61	キビタキ	○				○					
62	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	キセキレイ			○							
64	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
65	セグロセキレイ				○						
66	タヒバリ						○				○
67	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	シメ							○			
69	ホオジロ	○		○	○			○		○	
70	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
71	オオジュリン			○						○	
72	ドバト	○	○					○			
合計	72 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	38 種	35 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		43 種	

注 1. ●は第 5 回調査で実施した自動撮影カメラでの確認種を示す。他調査回とは調査手法が異なるため、種数に計上しなかった。

 カルガモ	 スズガモ(重要種)
 カンムリカイツブリ(重要種)	 ハジロカイツブリ
 カワウ(抱雛)	 アオサギ
 オオバン(重要種)	 コチドリ(重要種)
 イソシギ(重要種)	 ユリカモメ

写真 2 (1) 旧防波堤で確認された主な鳥類

 ウミネコ	 トビ(重要種)
 スズメ(ソメイヨシノで休息)	 ハクセキレイ
 カワラヒワ(アブラナの種子を採餌)	

写真 2 (2) 旧防波堤で確認された主な鳥類





写真 3 自動撮影カメラ及び踏査中に確認された生き物